[特集2] コラム

偶然の出会いと この上ない経験

飯田善彦
Yoshihiko Iida

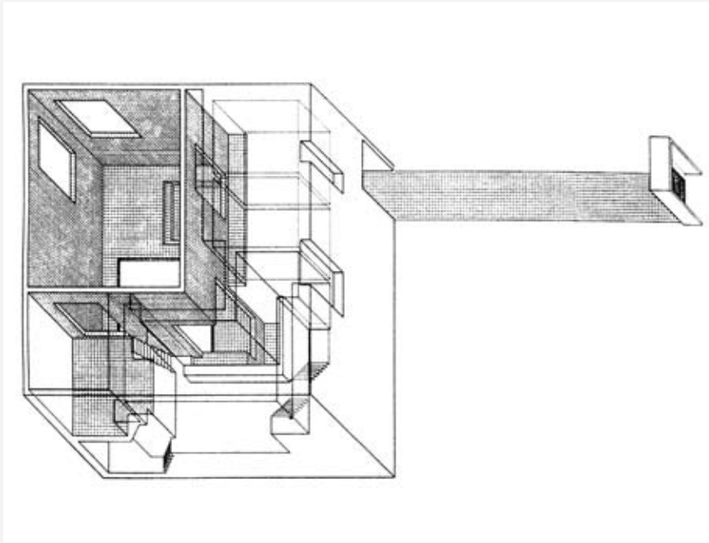
谷口さんと出会ったのは1973年、大学を卒業した年にさかのぼる。私事になるが、僕は1969年、横浜国大に入学した。折しも大学闘争真っ最中、入学しても学生が大学を占拠していて授業がなかった。僕たちは戸惑いながらもすぐに順応し、自主講座と称して原広司さんをバリケードの中に呼んで話をしてもらったり、非常時故の様々な出来事はそれなりに面白かった。その後、闘争も空転し、自分の居場所もなくなり、授業が再開しても今ひとつ身が入らず、3年生になったとき、改めてちゃんと建築に向き合ってみようと考えた。無謀にも当時『都市住宅』誌を賑わせていた若手建築家に片っ端から電話をしてアルバイトを打診し、どういう訳か槇(文彦)さんの事務所に引っ掛かった。何もできないくせに模型に手を出し、あまりのできの悪さにあきれられ、その後、当時分室にあったアーバンデザインや、進行していたプロジェクトの実施設計を言われるままに手伝ったり、雑誌プレゼ用の図面をインキングしたり、できることは何でもやっていた。当時、若いスタッフが多く、事務所内は活気に満ち刺激的で、大学に行くよりずっと多くの時間を槇事務所で過ごした。卒業する段になって、どうしようか格別の意志もなく、いい加減に迷っていたとき、槇さんから、「谷口(吉生)さんという人がいてスタッフを探しているからいってみないか」と声をかけられた。当時、谷口さんは丹下事務所を離れ、曽根幸一さんと組んで沖縄国際海洋博の仕事を始めている、ということだった。谷口さんが何者か知らぬまま、流されるように海洋博チームに入った。槇さんに挨拶をしたとき、「禅問答みたいなところがあるから、そのつもりで付き合いなさい」というようなことを言われたことを覚えている。どのようなシチュエーションで、どのような文脈だったのか全く記憶にないが、禅問答という言葉だけは妙にくっきりと今でも記憶に残っている。当時は意味もわからず聞き流していただけだった。初めて仕事をする谷口さんは、海洋博チームで独特の存在感を発揮していた。曽根さんの所員である30歳前後のスタッフ数人を中心にしたチームを抱え、谷口さんは図面を描くこともなく、例えば夕方来て何か打ち合わせをしてすぐ帰ってしまう。最も下っ端だった僕はどんな打ち合わせが進行しているのか全くわからなかったが、議論が白熱して、谷口さんから「これこれ、こういう図面をすぐ描いてくれ」と指示が出た直後、他のメンバーから「そんなのやらなくてもいいから違う図面を作れ」なんてことが結構あった。1年でこのチームは所期の仕事を終えて解散したが、その後、谷口さんから事務所を作るから残ってほしいと頼まれたのは、例えば矛盾した2つの指示に対し、どちらもとりあえずすぐに作ってしまう器用さが少しは重宝されたのかもしれない。事務所をつくるといっても、最初は青山墓地裏にあったマンションの、誰のものかもよくわからないとても小さな一室に呼ばれたものの、およそ半年の間、何の仕事もなかった。僕は毎日そこに出かけていっては適当に本を読み、ブラブラ散歩して夕方、家に帰った。確か給料はお父さんの吉郎先生の事務所から支払われていたはずである。そんな、暇を持て余していた中、初めて入った仕事が「雪ヶ谷の住宅」[1975]である。時間はたっぷりあったから、谷口さんと様々な案を考え模型を作った。雪ヶ谷の静かな住宅街にある旗竿敷地で、施主に無線の趣味があり、3段せり上がり式の柱に支えられた直径15mもある回転するアンテナを、奥のほぼ正方形の地形の中心に立てることが条件だった。設計をつめていたある日、そのときに進めていた、一番遠い2辺に沿ったL型案の模型を、谷口さんがひょいと持ち上げ、クルッと回して路地と庭を分断するように置き換え、「これがいい、これでいこう」と決めたが、その機転と一瞬の判断に驚いた。谷口さんは図面を描かない人である。いろんな図面を下に敷いてスケッチは沢山描くけど、とにかく定規を使った図面は描かない。しかも案が決まって実施設計に入っても、谷口さんは何も教えてくれず(本人は丹下さんの事務所で10年カバン持ちをやっていた、と冗談めいて言うばかり)、結局、僕は海洋博で一緒だった曽根さんの事務所から実施設計図面を一式借りてきて(旗の台の集合住宅だった)、そして当時、鹿島出版会から出ていた3冊組みのディテール集を買い揃え、とにかく一から学習せざるを得なかった。その後、役所に確認申請を出しに行って、居室の日照や厨房の区画、その他、諸々指摘され、役人に教えられながら大慌てで基準法を調べた。とにかく何もかも初めての経験だった。よくまとめられたものである。ただ、そんな中で、唯一谷口さんが定規を引いて描いた図面がある。「雪ヶ谷の住宅」の外構図、15cm角の練り込みタイルを平面、立面に割り付けたとても繊細で美しい図面である。僕が知る限り、後にも先にも他にはないと思う。今でも谷口事務所の倉庫の片隅にこの貴重な1枚が眠っているはずである。この住宅の途中で、谷口さんは高宮(眞介)さんと組んで「計画・設計工房」を立ち上げた。大林出身で、やはり丹下事務所にいた高宮さんは実務に強く、谷口さんとは、又、別の意味の天才肌で、とにかくようやくディテールを含めて相談できる人が身近に来てくれてほっとしたことを覚えている。2人のコンビは抜群で、いつも冗談を言い合いながらお互いの個性を十分発揮し、仕事を進めていた。その成果は言わずもがなである。当時、事務所の場所も不動産屋を巡って物色し、最終的に谷口さんの一声で飯倉片町のスペイン村の一角、10坪のオフィスに決めスタートした。今考えると、何故かわからないが、トイレの中を蛍光グリーンに塗り、出てくると目の前が何となくピンクに見えたことをよく覚えている。その後スタッフも少しずつ増えて、だんだん事務所の体裁が整っていった。

谷口さんに図面の書き方は教わらなかったけれど、建築をどう構想し、どう作っていくのかは、身にしみるように、つまり頭ではなく、いやも応もなく全身で覚えさせられたように思う。これは僕だけでなく、おそらくスタッフ誰もが経験しているが、とにかく谷口さんと付き合うのは大変である。ああしたい、こうしたい、もっとああしたい、もっとこうしたい、変更に次ぐ変更は当たり前で、しかもなかなか決めてくれない。僕はある現場で、コンクリート打設直前に壁の位置をずらしてもらった経験があるが、工務店との交渉は当然のことながら死ぬ程大変だった。何故そこまでして変えなきゃいけないのか、険悪な空気の中で考える訳である。そこまでして変えたい理由は何なのか? ボスの命令である以上に、自分でもその新しい案を見てみたいと思わせる何かが確かにあって、とにかく必死にならざるを得なくなる。建築に向かう熱意、わがままだけどそれを人に納得させ、こちらが根負けしてしまう、何ともいえない粘り強さと魅力が谷口さんにはあった。そんな経験を繰り返すうち、それが建築を実現する上で何よりも大事なんだということをいつの間にかこちらが身体化されてしまう。その後、僕は幸いにも「資生堂アートハウス」[1978]と「金沢市立図書館」[1978]をほぼ同時に担当し、最後にまぼろしの「Gハウス」[1980]を竣工させた時点で事務所を離れた。考えてみれば、谷口さんはいつも僕に(おそらく他のスタッフにも)複数の案を考えるようにさせた。建築は全体から細部まで常に決定すべき局面の連続だから、結局いつも、あらゆる時点で複数の案を考え、しかもどの案がいいか自分で決めておかなければならない。だけど自分がベストと思う案を谷口さんがいいと言うとは限らず、むしろ全く新しい案が出てくることの方が多い。僕が独立したのは30歳の時だけど、そのとき、とにかく、自分が考え出した案を谷口さんのためではなく自分のために実現したいと強く思った。7年間、谷口さんと向き合い、谷口さんのために考え続け、しかしながら実現しなかった多くのアイデアがたまりにたまって身体から溢れるほどになり、もうこれ以上ここにいるとおぼれ死んでしまう、と思ったのだ。そのような決意を促す7年間の蓄積。何も教えない、という方針を谷口さんが計画的に立てたとはとても思えない。が、結果として僕はそのような状況に置かれたことにこれ以上ないほど感謝を覚える。巧まざる教育者。谷口さんは笑って否定すると思うけれど、その関係のあり方がまさしく実務教育そのものだった。全力でぶつからざるを得ない状況が常に用意されていたことが。

誤解を恐れず言うと、谷口さんは概念の人ではない。と言うより、おそらく概念を言語化することに全く興味を持っていない。むしろその時点で構想している建築の有り様、物語を物質、あるいはそれらが形作る空間として紡ぎ出す、そのことに全精力を費やすことに何の疑問も抵抗もない。時々、「谷口さんは新しい建築を生み出していない」と言う人がいるけど、元からそのような言説としての新しさには何の興味もないのだ。概念なんかどうでもよく、もっと重要な、人間の身体に働きかける空間のプロポーション、素材、納まり、さらにはそのような空間のつながり方、あるいは経路、そこに細心の注意を払い、その中を通過し、滞在する身体になりきって、何回も何回も納得いくまで、自分の眼と手を使って、徹底的にシミュレーションを重ね、これ以上ないところまで突き詰めないと気が済まないのだ。とても狭いようでとても深い、その領域は他に比べようがないほど苦しく、しかし豊かな世界なのだと思う。僕が離れた後、今に至るまで生み出された数多くの素晴らしい作品群を見れば、その尽きない豊かさ、豊穣でありながら厳格な、希有の個性は明らかである。

槇さんに言われた禅問答という言葉は、おそらく正解のない世界を逍遥しながら常に自問を繰り返し、自分の納得する世界を築き上げようとする修験者の一端を予見したものかもしれない。そのような個性に出会うことができ、いみじくも徹底して鍛え上げられたことは、この上なく幸運だったことに違いない。

雪ヶ谷の住宅 アクソメ図



いいだ・よしひこ——横浜国立大学大学院建築都市スクールY-GSA教授/1950年生まれ。1973年、横浜国立大学工学部建築学科卒業。
計画設計工房(谷口吉生、高宮眞介)、建築計画(共同:元倉眞琴)を経て、1986年、飯田善彦建築工房設立。
主な作品:川上村林業総合センター 森の交流館[1997]、名古屋大学野依センター[2003]、横須賀市営鴨居ハイム[2006-09]、佐野清澄高等学校 佐山記念体育館[2008]など。

特集2｜年譜

谷口吉生作品年譜

Y. Taniguchi

作品および計画

［竣工・計画年／作品名／所在地／掲載誌］
［◎］は計画案｜海外の掲載誌は除く

1975 雪ヶ谷の住宅［東京］
「新建」1976.6｜「JAPAN INTERIOR DESIGN」1976.7｜「GA HOUSES」1976.11｜「ja」1976.11｜「家庭画報」1977.5

1976 福井相互銀行成和支店［福井］
「新建」1976.6｜「ja」1976.11

1978 金沢市立図書館［石川］
「文化」1979.7｜「近代建築」1979.7｜「新建」1979.7｜「日経アーキ」1979.7.9｜「ja」1980.1｜『DA建築図集―図書館』新日本建築家協会編［彰国社／1986］｜「JA」No.21.1996.3

資生堂アートハウス［静岡］
「文化」1979.7｜「JAPAN INTERIOR DESIGN」1979.9｜「新建」1979.9｜「日経アーキ」1979.10.1｜「ja」1980.1｜「建築画報」1980.7｜『DA建築図集―美術館II』1982｜「日本の現代建築」鈴木博之編［講談社／1984］｜「日本の美術館建築展図録」世田谷美術館編［世田谷美術館／1987］｜「JA」No.21.1996.3

1979 北塩原村役場・コミュニティセンター［福島］
「文化」1980.9｜「新建」1980.9｜「ja」1981.4｜『DA建築図集―複合市民施設』1985

1983 秋田市立中央図書館［秋田］
「日経アーキ」1983.12.5｜「文化」1984.1｜「新建」1984.1｜「ja」1984.3｜「公共建築」1987.12｜「JA」No.21.1996.3｜『建築計画・設計シリーズ13―図書館』天野克也・谷口汎邦ほか著［市ケ谷出版社／2001］

清春白樺美術館［山梨］
「日経アーキ」1983.9.26

土門拳記念館［山形］
「日経アーキ」1983.11.21／1991.9.30｜「文化」1983.12｜「新建」1983.12／1990.8（臨時増刊）｜「建築画報」1984.2｜「ja」1984.3｜「建築設計資料13―美術館」建築思潮研究所編［建築資料研究社／1986］｜『日本の美術館建築展図録』1987｜『アクアスケープ：水の造景』伊藤美和子ほか編［プロセスアーキテクチュア／1990］｜『S.D.S. 3―美術館・博物館』S.D.S.編集委員会編［新日本法規出版／1995］｜「JA」No.21.1996.3｜『GA Contemporary Architecture 01―MUSEUM1』［A.D.A. EDITA Tokyo／2001］

1985 ホテル安比グランド［岩手］
「日経アーキ」1986.10.13（別冊インテリア）／1986.10.20｜「文化」1986.11｜「新建」1986.11／1990.8（臨時増刊）｜『第28回建築業協会賞作品集』［建築業協会／1987］｜「ina REPORT」1987.2｜『商業建築設計資料13―リゾート ホテル・施設』和風建築社編［建築資料研究社／1988］｜「JA」No.21.1996.3

1986 礼拝堂（ジョルジュ・ルオー記念館）［山梨］

1987 慶應義塾幼稚舎新体育館［東京］

1989 東京都葛西臨海水族園［東京］
「ja」1987.11-12／1990.2｜「日経アーキ」1989.10.30｜「文化」1989.11｜「新建」1989.11／1990.8（臨時増刊）｜「アクアスケープ：水の造景」1990｜「JAPAN LANDSCAPE」1990.2｜「POP EYE（総合報道）」1990.2｜「GA DOCUMENT」No.25.1990.4｜「現代建築集成1―文化施設」メイセイ出版編［メイセイ出版／1993］｜「S.D.S. 3―美術館・博物館」1995｜「JA」No.21.1996.3｜『建築計画・設計シリーズ19―博物館』戸尾任宏・佐々木雄二著［市ケ谷出版社／1998］｜『建築設計資料110―水族館』2008

齋藤茂吉記念館（増築・改修）［山形］
『建築設計資料28―記念展示館』1990

1990 長野県信濃美術館東山魁夷館［長野］
「日経アーキ」1990.6.25｜「文化」1990.7｜「新建」1990.7｜「ja」1990.11-12｜『アクアスケープ2：水の造景』［プロセスアーキテクチュア／1994］｜「S.D.S. 3―美術館・博物館」1995｜「JA」No.21.1996.3｜「approach」1997冬

1991 酒田市国体記念体育館［山形］
「文化」1991.11｜「新建」1991.11｜「日経アーキ」1991.11.11｜『第34回建築業協会賞作品集』1993｜『現代建築集成4―スポーツ・レクリエーション施設』1994｜「JA」No.21.1996.3｜『建築計画・設計シリーズ30―スポーツ施設』服部紀和ほか著［市ケ谷出版社／1998］

日本アイ・ビー・エム幕張テクニカルセンター［千葉］
「FP別冊 kúkan（学研）」1992.3｜「文化」1993.6｜「JA」No.21.1996.3

丸亀市猪熊弦一郎現代美術館［香川］
「GA DOCUMENT」No.25.1990.4／No.33.1992.4｜「日経アーキ」1992.6.22｜「文化」1992.7｜「新建」1992.7｜「JA」No.7.1992.9／No.9.1993.4／No.21.1996.3｜『現代建築集成1―文化施設」1993｜『第34回建築業協会賞作品集』1993｜「SIGNS in Japan（全日本屋外広告業団体連合会）」No.67.1993.3｜『建築設計資料49―美術館2』1994｜『DA建築図集―博物館・資料館II』1995｜「JAPAN LANDSCAPE」1995.6｜『建築計画・設計シリーズ18―美術館』鈴木歌治郎ほか著［市ケ谷出版社／1997］

1992 慶應義塾湘南藤沢中・高等部［神奈川］
「文化」1992.8｜「新建」1992.8｜「JA」No.7.1992.9／No.9.1993.4／No.21.1996.3｜「JAPAN」No.2.1993｜『現代建築集成3―教育施設』1994｜『建築設計資料67―学校2』1998｜『スクール・リボリューション―個性を育む学校』長澤悟・中村勉編著［彰国社／2001］

1993 葛西臨海公園水上バス待合所［東京］
「JAPAN」No.17.1995.11-12｜『現代建築集成13―交通施設』1997｜「SD」1997.10

1995 豊田市美術館・高橋節郎館［愛知］
「近代建築」1996.1｜「新建」1996.1｜「日経アーキ」1996.1.1｜「JAPAN」No.18.1996.1-2｜「JA」No.21.1996.3｜『建築計画・設計シリーズ18―美術館』1997｜「YAMAGIWA PROJECT NEWS」No.1.1997｜「SD」1998.9｜『建築計画・設計シリーズ39―新・建築外部空間』志水英樹ほか著［市ケ谷出版社／2001］

葛西臨海公園展望広場レストハウス［東京］
「日経アーキ」1995.9.25｜「新建」1995.10｜「JAPAN」No.17.1995.11-12｜「JA」No.20.1995.12／No.21.1996.3｜「SD」1997.10｜『建築設計資料74―公園内施設』1986

1996 つくば市民交流センター［茨城］
「JA」No.21.1996.3｜「新建」1996.11｜「JAPAN」No.23.1996.11-12｜『第40回建築業協会賞作品集』1999

1997 浜松市茶屋 松韻亭［静岡］

1999 東京国立博物館法隆寺宝物館［東京］
「JA」No.21.1996.3／No.44.2002.1｜『第41回建築業協会賞作品集』2000｜「作品選集2001」2001｜「新建」2001.5

ルンビニー幼稚園［東京］

2002 慶應義塾幼稚舎新館21［東京］
「新建」2002.8｜「JA」No.48.2003.1

◎愛知万博政府館基本計画案［愛知］

2004 広島市中工場［広島］
「新建」2004.7｜「JAPAN」No.69.2004.7-8｜「公共建築」2008.11

香川県立東山魁夷せとうち美術館［香川］
「JAPAN」No.76.2005.9-10｜「新建」2006.1

ニューヨーク近代美術館［アメリカ・ニューヨーク］
「新建」1998.2／2004.7／2005.9｜「JAPAN」No.76.2005.9-10｜「日経アーキ」2005.9.5｜『GA Contemporary Architecture 02―MUSEUM2』［A.D.A. EDITA Tokyo／2008］

2005 ◎ZÜRICH FORUM［スイス］
「GA DOCUMENT」No.97.2007.6

東京倶楽部新会館［東京］
「新建」2006.1｜「JA」No.64.2007.1

2009 フォーラムビルディング［東京］

2010 ノバルティス研究所［スイス・バーゼル］

主な受賞

1979 第2回（昭和54年度）金沢都市美文化賞｜金沢市立図書館
1980 昭和54年度日本建築学会賞（作品）｜資生堂アートハウス
第21回建築業協会賞｜金沢市立図書館
1983 第2回（昭和58年度）秋田市都市景観賞｜中央図書館明徳館
1984 第4回東北建築賞（作品賞）｜酒田市写真展示館
第2回（昭和58年度）福島県建築文化賞特別賞｜北塩原村役場庁舎・コミュニティセンター
第9回吉田五十八賞｜土門拳記念館
1985 第5回東北建築賞（作品賞）｜秋田市立中央図書館明徳館
1987 昭和61年度第43回日本芸術院賞｜土門拳記念館
第28回建築業協会賞｜ホテル安比グランド
1990 第31回毎日芸術賞｜東京都葛西臨海水族園
1991 第32回建築業協会賞｜東京都葛西臨海水族園
1993 第2回ふじさわ都市デザイン賞1992景観部門｜慶應義塾湘南藤沢キャンパス
第34回建築業協会賞｜酒田市営国体記念体育館
第34回建築業協会賞｜丸亀市猪熊弦一郎現代美術館・丸亀市立図書館及び丸亀駅前南駐輪場
1994 第7回村野藤吾賞｜丸亀市猪熊弦一郎現代美術館・丸亀市立図書館
第4回公共建築賞｜東京都葛西臨海水族園
1996 第5回公共建築賞・特別賞｜丸亀市猪熊弦一郎現代美術館・丸亀市立図書館
第10回豊田市都市景観賞｜豊田市美術館
1997 第38回建築業協会賞｜豊田市美術館
1999 第40回建築業協会賞｜つくばカピオ
2000 第7回公共建築賞｜豊田市美術館
第41回建築業協会賞｜東京国立博物館法隆寺宝物館
2001 2001年日本建築学会賞（作品）｜東京国立博物館法隆寺宝物館
2004 第46回建築業協会賞｜広島市環境局中工場
2005 平成16年度香川県建築士会特別賞｜香川県東山魁夷せとうち美術館
2008 第11回公共建築賞｜広島市環境局中工場
2010 2009年度第9回JIA25年賞｜資生堂アートハウス
2009年度第9回JIA25年賞｜土門拳記念館

主な展覧会

［展覧会名／開催場所／会期］

- 住宅模型展―建築家のアトリエから｜松屋銀座 7階デザインギャラリー｜1981.5.8-5.20
- SDレビュー1982 建築の模型+ドローイング展｜代官山ヒルサイドテラス｜1982.10.15-10.28
- 第九回建築設計図展 谷口吉生展―感性のモニュメント｜大阪心斎橋ソニータワー 9階ソニーサロン｜1986.3.10-3.16
- 日本芸術院賞受賞者展｜松屋銀座 7階画廊｜1987.6.5-6.10
- 日本の美術館建築展｜世田谷美術館｜1987.2.21-3.22
- ハーバード大学G.S.D 谷口吉生建築作品展｜ハーバード大学G.S.D建築学科1階展示場｜1987.6.1-30
- GA JAPAN '88 第2回（現代日本の建築家）展｜GA Gallery｜1988.6.4-7.17
- 東京都建築展―東京が見える21世紀が見える 都立施設模型・パース展｜新宿NSビル 1階大時計広場｜1989.8.23-8.30
- ユーロバリア89建築展 東京プロジェクト｜Galerie CGER（ベルギー）｜1989.10.6-11.17
- GA JAPAN '90 第3回（現代日本の建築家）展｜GA Gallery｜1990.4.14-5.20
- 第1回アーキテクチュア・オブ・ザ・イヤー 建築デザインの新たなる潮流（プロデューサー：丹下健三）｜メトロポリタンプラザ メットホール｜1993.11.16-11.30
- '95アーキテクチュア・オブ・ザ・イヤー 建築を支える第6世代の技術（プロデューサー：木村俊彦）｜メトロポリタンプラザ メットホール｜1995.11.16-11.29
- Toward the New Museum of Modern Art：Sketchbooks by Ten Architects｜ニューヨーク近代美術館｜1997.5.3-10.7
- 21世紀美術館のための10のプレゼンテーション：NY近代美術館拡張計画設計案展｜TNプローブ｜1997.11.20-1998.1.31
- JAPAN 2000 建築展 デザイン展｜シカゴ美術館 黒川紀章ギャラリー｜1998.2.21-5.10／6.6-9.7 || サンフランシスコ空港美術館｜1998.2.21-5.10／6.6-9.7 || ベルリン世界文化会館｜1999.2.4-3.7
- Rethinking the Modern：Three Proposals for the Museum of Modern Art｜ニューヨーク近代美術館｜1998.3.5-4.28 || モダンの再考：NY近代美術館のための3つの最終案展｜TNプローブ｜1999.3.15-4.28
- '99 アーキテクチュア・オブ・ザ・イヤー展｜新宿NSビル｜1999.9.30-10.20
- Towards Totalscape "Contemporary Japanese architecture, urban design and landscape architecture"｜Netherlands Architecture Institute（オランダ）｜2000.10.21-2001.1.14
- SUR／FACE：14 contemporary Architects from Japan｜BMWスクエア｜2001.4.14-4.30
- ニューヨーク近代美術館「MoMA」巡回建築展 MUSEUM BY YOSHIO TANIGUCHI 谷口吉生のミュージアム｜東京オペラシティアートギャラリー｜2005.4.8-6.26 || 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館｜2005.7.10-9.25 || 豊田市美術館｜2005.10.22-12.25
- Museum in the 21st Century：Concepts, Projects, Buildings｜世界各国を巡回｜2006.4.1-
- パラレル・ニッポン 現代日本建築展｜東京都写真美術館｜2006.10.21-12.3
- 第15回〈現代世界の建築家〉展 GA INTERNATIONAL 2007｜GA Gallery｜2007.6.16-8.5
- 「新日本様式」100選｜東京国立博物館表慶館（レセプション会場：東京国立博物館法隆寺宝物館）｜2007.11.28-12.2

主な講演・その他

［講演会名／主催／開催年月日］

- 建築基準法建築士法施行30周年記念事業特別講演「建築と建物」｜兵庫県｜1980.11.8
- '82建築を語る―講演と対話シリーズ「私の建築観」｜大阪建築設計監理協会｜1982.7.8
- 第18回講演会「私の建築観」｜静岡県建築文化研究会｜1982.9.11
- フランス政府招待講演"Creation et Createurs dans le Japon, Aujourd'hui（現代日本の創造家達）T今日の日本建築について」｜フランス政府｜1985.4.22
- 第10回アイカ現代建築セミナー「静かな建築」｜アイカ現代建築セミナー実行委員会｜1985.10.18
- 早稲田大学大学院理工学研究科デザイン方法論「東京都葛西臨海水族園」｜早稲田大学｜1990.6.6
- A.A.C.A '90長野シンポジウム（記念講演会とシンポジウム・交流の集い）「自然と環境 東山魁夷館」｜日本建築美術工芸協会｜1990.7.21
- 建築学会講義博物館研究会「葛西臨海水族園について」｜新日本建築家協会｜1990.11.13
- 慶應義塾大学公開講座―公共財としての芸術を考える「建築における公共性と芸術性」｜慶應義塾大学文学部／慶應義塾松永記念文化財研究基金｜1991.4.25
- 第8回JPAゼミナール「建築における公共性と芸術性」｜日本写真作家協会｜1991.10.15
- 平成3年度公共建築研究会講演会―21世紀を展望した公共建築をめぐる諸問題「建築における公共性と芸術性」｜営繕協会｜1991.11.6
- プリデストン美術館と曜講座開館40周年記念 美術館の現在と未来―連続インタビュー「美術館建築について」｜石橋財団／プリデストン美術館／全国美術館会議｜1992.3.28
- 1992年度日本建築学会主催建築家講演会「地域から世界へ―丸亀市猪熊弦一郎美術館の設計について」｜日本建築学会｜1992.9.27
- 建設省営繕工事設計コンクール講演会「建築の公共性と芸術性」｜建設省｜1993.3.4
- Japan Society of Boston 90th Celebration & Beyond Symposium―The Role of the Artist Contemporary Japan｜The Japan Society of Boston／The Toshiba International Foundation｜1994.10.27
- イサム・ノグチと勅使河原宏展記念講演会「イサム・ノグチを語る」｜朝日新聞社／KSB瀬戸内海放送／NHK高松放送局／丸亀市猪熊弦一郎現代美術館／ミモカ美術振興財団｜1995.9.10
- 公共建築再見セミナー 東京都葛西臨海水族園｜公共建築協会｜1995.9.13
- 島崎藤村記念館落成記念日「建築を語る」｜島崎藤村記念館｜1995.11.15
- 石川県建築士会講演会「建築を語る」｜新日本建築家協会関東甲信越支部｜1996.3.7
- AIA The International Architect's Forum｜AIA｜1996.5.10
- 慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス1996年度秋学期現代美術講義「技と巧み」｜慶應義塾大学古川研究所｜1996.10.25
- Columbia Univ. Lecture｜Columbia Univ.｜1998.3.9
- 広島の街づくりを考える「広島の環境と建築」｜広島県建築士会｜1998.12.9
- 公共建築協会（近畿地建）30周年記念講演会「ニューヨーク近代美術館の設計について」｜公共建築協会近畿地区地方委員会｜1998.12.10
- Espace, lumiere et geometrie「日本の美術館建築」｜ルーブル美術館｜1999.6.16
- イサム・ノグチ1904～1988の遺したもの「21世紀のアートと環境をつなぐ」｜イサム・ノグチ日本財団｜2000.11.1
- 「開館10周年記念 猪熊弦一郎の仕事展」記念対談｜丸亀市猪熊弦一郎現代美術館｜2001.11.25
- 「谷口吉生のミュージアム」開催記念講演会シリーズ｜東京オペラシティ文化財団｜2005.4.22／5.11／5.28／6.24
- 国際博物館の日記念講演会「ミュージアムの建築―法隆寺宝物館、MoMA、その他の設計をとおして」｜東京国立博物館｜2005.5.14
- ニューヨークから丸亀へ―MIMOCAの建築経緯、目的とその意義を改めて見つけ、今後のあるべきMIMOCA像を考えます｜丸亀市猪熊弦一郎現代美術館｜2005.7.10
- 開館10周年記念鼎談｜豊田市美術館｜2005.10.22
- 高松宮殿下記念世界文化賞 谷口吉生建築を語る 2005年受賞記念建築講演会｜日本美術協会｜2005.11.25
- 東京大学2007年度設計製図特別講義 第4回谷口吉生「建築とは」｜東京大学大学院工学系研究科建築学専攻｜2007.6.28
- 公共建築の日シンポジウム「時代が求める公共建築―公共建築賞受賞作品を通して」｜「公共建築の日」及び「公共建築月間」実行委員会｜2008.11.11
- 慶應義塾大学美学美術特殊 建築史建築論「建築を学ぶ」｜慶應義塾大学美学美術史学科｜2008.12.16／2010.1.19
- 新総湯とONSENプロムナード―片山津温泉の再生に向けて｜片山津温泉まちづくり推進協議会｜2009.9.12
- 玉川図書館開館30周年記念事業「私と建築と金沢」｜金沢市教育委員会／金沢市立玉川図書館｜2009.10.31
- イサムノグチ庭園美術館開館10周年記念シンポジウム「イサム・ノグチが遺したもの、未来への贈り物」―第二部 イサム・ノグチに学ぶ｜イサム・ノグチ庭園美術館｜2009.11.15

主な著書

［書名／出版社／出版年］

- 『現代建築空間と方法14―谷口吉生／土門拳記念館』｜同朋舎出版｜1986
- 『谷口吉生建築作品集』｜淡交社｜1996
- 「JA No.21 谷口吉生」｜新建築社｜1996.3
- 『The Architecture of Yoshio Taniguchi』｜Harry N. Abrams, Inc.｜1999
- 「建築を見る―谷口吉生「丸亀市猪熊弦一郎現代美術館・図書館」（エスキスシリーズ4）」（古谷誠章編著）｜彰国社｜2001
- 『YOSHIO TANIGUCHI NINE MUSEUMS』（Terence Riley著）｜The Museum of Modern Art｜2004
- 『谷口吉生のミュージアム』（テレンス・ライリー、鈴木博之著）｜デルファイ研究所｜2005

主な論文・記事

［タイトル／掲載紙／掲載年月日］
海外の掲載誌は除く

- 結晶の家｜「都市住宅」1969.9
- 像と地｜「新建」1976.6 || 英訳：Between the Interior and the Exterior｜「ja」1976.11
- A House in Yukigaya／和訳：雪ヶ谷の家｜「GA HOUSES」1976.11
- 設計ノート｜「新建」1979.7 || 英訳：Contrusting New and Old｜「ja」1980.1
- 設計について／資生堂アートハウス｜「新建」1979.9
- あとがき｜『せせらぎ日記』谷口吉郎著［中央公論美術出版／1980］
- 設計ノート｜「新建」1980.9 || 英訳：Corresponds to the Outside｜「ja」1981.4
- 座談会：世界の「さかた」を目指して―土門拳記念館の意味するもの（三堀家義×伊藤知巳×谷口吉生×伊藤善市×佐藤三郎×相馬大作）｜「広報さかた」1981.1.1
- 対談：建築を語る（谷口吉生×西澤文隆）｜「ina REPORT」1982.4
- 清春・白樺美術館｜「SD」1982.12
- 座談会：庭―内と外をつなぐ造形空間（イサム・ノグチ×谷口吉生×勅使河原宏）｜「草月」1983.11
- 土門拳氏へ｜「新建」1983.12
- ふたつの図書館｜「新建」1984.1
- 花のある窓｜「芸術公論」1984.9
- 公園と一体化した外部空間と中庭｜「公共建築」1985.6
- 私にとって特別な本｜「文化」1985.8
- 土門拳記念館の建築｜『現代建築空間と方法14―谷口吉生／土門拳記念館』［同朋舎出版／1986］
- 光・色・眺望｜「文化」1986.11
- 自然に干渉する―外観の意匠について｜「新建」1986.11
- 執筆｜『日本の美術館建築展図録』世田谷美術館編［世田谷美術館／1987］
- 書評：空間を指向する造形―『勅使河原宏 作品 1978-1987』｜「草月」1987.10
- 対談：ものをつくる（槇文彦×谷口吉生）｜「新建」1988.1
- 新しい体育館の建築｜「仔馬」1988.2
- 日本建築学会賞（作品）―委員の見解｜「建築雑誌」1988.7
- 設計メモ｜「新建」1989.11 || 英訳：Design Memorandum｜「ja」1990.2
- Tokyo Sea Life Park／和訳：東京都葛西臨海水族園／Genichiro Inokuma Marugame City Modern Art Museum／和訳：丸亀市猪熊弦一郎現代美術館（仮称）・図書館｜「GA DOCUMENT」No.25.1990.4
- 水のある建築｜「文化」1990.7
- 長野県信濃美術館東山魁夷館｜「新建」1990.7 || 英訳：Nagano Prefectural Shinano Art Museum, Higashiyama Kaii Gallery ||「ja」1990.11-12
- 葛西臨海水族園の設計から｜『建築を考える1』菊竹清訓編著［鹿島出版会／1991］
- 酒田市国体記念体育館｜「新建」1991.11
- 土門拳記念館｜「JAPAN AVENUE」1991.12-1992.1
- 東京都方式に望む―時代を超えて残る建築を｜「公共建築の冒険―東京都設計候補者選定委員会10年の歩み（建築ジャーナル別冊）」［建築ジャーナル／1992］
- 亀倉さんのこと｜「小説新潮」1992.3
- Marugame Genichiro-Inokuma Museum of Contemporary Art／和訳：丸亀市猪熊弦一郎現代美術館・丸亀市立図書館｜「GA DOCUMENT」No.33.1992.4
- 公共建築としての個人美術館｜「文化」1992.7
- 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館・設計について｜「新建」1992.7
- 慶應義塾湘南藤沢中等部・高等部・設計について｜「新建」1992.8
- 慶應義塾湘南藤沢中等部・高等部／英訳併載：KEIO SHONAN-FUJISAWA JUNIOR & SENIOR HIGH SCHOOL｜「JAPAN」No.2.1993
- 私の日本空間論―場所性との関わりから｜「建築雑誌」1993.5
- 生き生きとした美術館｜『キャンバスを超えた画家 猪熊弦一郎』［四国新聞社事業局出版部／1994］
- 酒田市国体記念体育館｜『現代建築集成4―スポーツ・レクリエーション施設』1994
- 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館・丸亀市立図書館｜『建築設計資料49―美術館2』1994
- 時代が求める公共性｜『第4回公共建築賞受賞作品集』［公共建築協会／1994］
- 一枚の写真／英訳併載：A Single Photograph｜『野口ミチオ写真集 石に生きる―和泉正敏の仕事』［悠思社／1994］
- 座談会：都市と公共建築（谷口吉生×南條道昌×長谷川逸子×照井進一）｜「MCM建設月報」1994.1
- 設計に携わった当時のこと｜「清春」1995.4
- 建築を学ぶ｜「建築雑誌」1995.10
- 葛西臨海公園展望広場レストハウス｜「新建」1995.10
- 豊田市美術館｜「新建」1996.1
- 対談：元気ですか？（谷口吉生×勅使河原宏）｜「草月」1996.4
- つくばカピオ｜「新建」1996.11
- 公園を取り込む門構え｜「JAPAN」No.23.1996.11-12
- 空間芸術としてのファッションデザイン／英訳併載：Fashion Design as Art of Space｜『イサム・ノグチと三宅一生 アリアナ展図録』［丸亀市猪熊弦一郎現代美術館／1997］
- Yusaku Kamekura：The Artist and the Man／和訳併載：亀倉さんのこと｜『Creation No.21 亀倉雄策追悼特別号』田中一光ほか監修［リクルート／1998］
- 慶應義塾湘南藤沢中等部・高等部｜『建築設計資料67―学校2』1998
- 表紙の人―建築家は苦労が多くて人より早く歳を取ります｜「AERA」1998.11.2
- 法隆寺宝物館の建築｜「公共建築ニュース」1999.8
- 葛西臨海水族園に託したもの｜「どうぶつと動物園」1999.10
- 猪熊弦一郎 芸術と交遊の軌跡 第34回 丸亀とニューヨーク｜「四国新聞」2000.11.19
- 曲線の造形―宏さんの手の跡が残るかたち｜「草月」2001.8
- 大きいスケール、アートで世界観表す―猪熊美術館開館10周年記念鼎談（谷口吉生×田中一光×木島俊介）｜「四国新聞」2001.11.25
- 志半ば、彫刻・建築の協同／英訳併載：An Unrealized Collaboration of Sculpture and Architecture｜『素顔のイサム・ノグチ―日米54人の証言』［四国新聞社編［四国新聞社／2002］
- 対談：同期生対談―"MOMA"（ニューヨーク近代美術館）と"ヘリオトロン"（核融合研究センター）（谷口吉生×飯吉厚夫×服部禮次郎）｜「三田ジャーナル」2002.2
- 対談：大らかな空間が子供を育てる（金子郁容×谷口吉生）｜「新建」2002.8
- 広島市中工場完成―設計メモ 外観特別飾らず内部に公共空間｜「建設通信新聞」2004.4.1
- わたしの一点―丸亀市猪熊弦一郎現代美術館｜「三田評論」2004.11
- 土門拳記念館の建築｜『山形県文学全集 第II期（随筆・紀行編）第5巻（昭和戦後編III）』［郷土出版社／2005］
- 語る―自分見つめる静かな空間｜「日本経済新聞」2005.4.9
- ユーレーカ! 美の扉が開く時―独自の設計思想 新鮮｜「新潟日報」2005.6.20
- 新たなニューヨーク近代美術館（MoMA）へ｜「新建」2005.9
- この人―建築はいろんな問題を同時に解決するパズル｜「中日新聞」2005.10.31
- 建物は額縁 ひきたてる役割｜「建設通信新聞」2005.11.24
- 敷地を読み取る―空間のプロポーションと景観｜「新建」2006.1
- 東京都葛西臨海水族園｜『建築設計資料110―水族館』2008

掲載誌凡例
「文化」→建築文化　「新建」→新建築
「日経アーキ」→日経アーキテクチュア　「JAPAN」→GA JAPAN